

学校経営目標等 重点目標	関係分掌	現状分析	今年度の達成基準	具体的計画	自己評価（中間）	評価	自己評価（最終）	評価	総合評価
「創造力」「社会参画力」の育成	1年 園	・本校での教育活動における地域参画の中心を玉野市と捉えるならば、1年生の取り組みべき最初のステップは玉野市を知ることであると考えます。	・令和6年度末ルーブリックアンケート集計結果が「創造力」「社会参画力」ともに2.5以上。	・「総合的な探究の時間」の年間計画に沿って1～2学期までは玉野市について理解するインプット活動を充実させ、3学期の活動において玉野市活性化に向けた提案を考えるアウトプット活動に取り組む。	玉野市の産業について外部講師による講演を2回実施し、その内容を個人作業・グループ活動でまとめ、発表する活動に取り組み、理解を深めた。今後は玉野市の魅力を学んだ後、学んだ情報をアウトプット活動につなげる。	B	これまでのインプット活動（講演や調べ学習）を基に、アウトプット（見出した課題とそれに対する解決案）に繋がる活動を、個の力に応じて取り組むことができている。自己評価アンケートにおいて、該当する項目の肯定的回答は60%を超えている。	B	A
	2年 園	・昨年度の学校自己評価アンケートの質問項目のうち、「地域」に関する項目の肯定的な割合が約56%、ルーブリック「社会参画力」「創造力」が2.7。	・学校自己評価アンケートの質問項目のうち、「地域」に関する項目で肯定的な割合が約60%以上、またはルーブリック「社会参画力」「創造力」で3以上。	・「総合的な探究の時間」の充実を図り、ボランティア活動などの諸行事への積極的な参加を促し、社会参画力・創造力を高める。	年度当初より「総合的な探究の時間」で、インターンシップ実習先の情報を収集し、夏季休業を通して、3期にわたって実習を実施した。実習を通して、玉野市の各事業所に触れ、社会に参画していく力を養った。今後は発表等を通して創造力を身につけていきたい。	B	夏季休業を通して、3期にわたってインターンシップ実習を実施した。玉野市の各事業所に触れ、社会に参画していく力を養うことができた。年度末に学年で調査したルーブリックでは「社会参画力」は3.1、「創造力」は2.8であった。年度当初からは若干上回ることができた。	B	
	3年 園	・令和5年度末ルーブリックアンケート集計結果より「創造力」3.0「社会参画力」2.7	・令和6年度末ルーブリックアンケート集計結果が「創造力」3.5「社会参画力」3.0	・行事や総合的な探究の時間などを通して、生徒の創造力を養い、主体性を持たせる取り組みを行う。 ・ボランティアなど外部活動の参加を促し、社会参画力を養う。	キッズビジネススタウンたまの開催に向けて、昨年度各ブースを担当した生徒を中心に準備を行っている。また、例年とは違う形で実施される学校行事が多いため、代表生徒を中心にクラスの意見をまとめ、新たな形の行事にどのように取り組むかを考え実施している。	B	令和6年度末ルーブリックアンケート集計結果 ・「創造力」3.55・・・雄心祭やキッズビジネススタウンたまなどの学校行事では、これまでと違う形で戸惑う場面も多々あった。自他の考えを共有し合い、高校生活「最後」という意識をもって、よりよい行事にしようとして協力しながら取り組む様子が見られた。 ・「社会参画力」3.64・・・ボランティア、課題研究、出前授業などの地域や企業の方々など外部と関わる活動が増えたことにより、目標とする数値を大きく超えたと考えられる。	A	
	機械科	・授業実習において地域の企業で学ぶ土壌があるのでその環境を生かした授業実習の実践を行っていく必要がある。	・授業実習において社会参画力のレベル3以上を目指す。	・地域の産業と結びつけた授業展開や実習を行う。 ・三井E&S、宮原製作所、精電社等と連携し力を育む。	地域企業と連携して協賛を募りロボットコンテストへ出場し、地域企業と連携し教育効果のある教育実践を実施できた。	B	・地域企業と連携して協賛を募りロボットコンテストへ出場し準優勝とアイデア賞を受賞した。 ・課題研究の地域貢献班が生徒の母校(中学校)へ製作したベンチを寄贈した。 ・地域の祭り等で小学生対象にミニ四駆製作教室を実施した。	B	
	ビジネス情報科	・2年「ビジネス実習」3年「課題研究」では地域や社会と関わることができている。その他の科目においても、「創造力」の育成に取り組める余地はある。	・1年の授業で「創造力」レベル1以上。 ・2年の授業で「社会参画力」「創造力」レベル2以上。 ・3年の授業で「社会参画力」「創造力」レベル3以上。	・1年ビジネスコミュニケーションで取り組む。 ・2年ビジネス実習で取り組む。 ・3年科目全体で取り組む。	各学年の科目において、基礎的な知識を学習しながら、今後の創造的活動や社会参画へ向けての準備をしている。その過程で、まずは自分の考えや意見を出せるように取り組みを行っている。	B	・1年ビジネスコミュニケーションで「創造力」2.8、2年ビジネス実習で「社会参画力」3.1、「創造力」3.0、3年課題研究で「社会参画力」3.8「創造力」レベル3.6という結果となった。	A	
	個別最適な学びと協働的な学びを取り入れた、学びを深める授業づくり	教務課	・社会参画力・創造力の育成を目指した授業が高く求められているができていない。	・授業改善に向けて、グループ学習、ペア学習や言語活動等を行い、社会参画力・創造力を育成する指導が70%以上となる。	・「学習のスタンダード」ができるよう促す。 ・生徒教員へのアンケート結果をもとに対策を考え喚起する。 ・授業事例の提案をまとめる。	・社会参画力、創造力の育成を目指したICTを使っの授業改善を企画した結果、教員のICTスキルがさらに上昇し、この2つの力を育成したと思われる。更に11月には6グループの代表者による研究授業を計画している。	B	授業改善に向け、グループ学習、ペア学習や言語活動等を行い、社会参画力・創造力を育成する指導は90%以上はできている。また、生徒もグループ学習やペア学習ができ、自分の意見を伝えたり、相手の意見を聞くことができている人が87%となっていた。	
国語科		・これまで学習習慣が身につけていない。 ・勉強は答えを写して終わりという生徒が多い。 ・提出物をきちんと出せる生徒が少ない。	・CoCoLoのGROW UPシート「知識力」の達成レベル平均値が、年度末に3.2を超える。 ・提出率の平均が60パーセントを超える。	・ICT使い生徒にも伝わりやすい授業を行う。 ・漢字の勉強を毎時間取り入れる。 ・外部の応募等を利用し、評価される場を増やす。	・知識力レベル平均値は3.0で、提出率は3学年で約90%を超えた。ICTを使い生徒にも見やすくし、漢字の練習も毎時間取り入れている。	B	・知識力は、3年生は3.2、1、2年生3.1で、卒業までとすれば目標基準値を達成した。 ・提出物の状況もどの学年でも8割を超えた。	B	
公民科		・授業において時事問題について解説、発問、レポート作成課題の提示等を行っているが、時事問題への関心が乏しい。	・3年生授業評価アンケートに項目を作成し、時事問題への興味関心について肯定的意見が60%以上になる。	・3年生の授業でニュース検定の問題集を使って多分野のトピックを取り上げ、教師からの解説や個別課題提示等だけでなく、少人数での感想や意見交換の時間を取り入れる。	・授業でニュース検定の問題集を使って多分野のトピックを取り上げ、解説やプリント課題の提示ができている。 ・少人数での感想や意見を交換する時間をワークシートを使用するなどして増やしていく。	B	・3年生の授業でニュース検定の問題集を使って多分野のトピックを取り上げ、教師からの解説や課題提示に加え、少人数での感想や意見交換の時間を取り入れた。評価アンケートでは、生徒の時事問題への興味関心について肯定的意見が6割を超えた。	B	
数学科		・自主学習用教材の配信、連絡等にClassroomを利用。 ・問題演習での教え合い、グループ学習などを実施。	・生徒のChromebookの利用頻度を増やし、授業での理解を深める活用を行う。 ・「分かった」等の肯定的回答が60%を超える。	・具体的な授業実践ができるように計画を進めていく。実践内容を数学科内で共有し次回に活かす。 ・グループワーク、教え合いの時間を確保する。	・毎回ではないが、学び合いの時間を取る事ができた。 ・授業プリントは共有できているが、内容までは共有できていないので、2学期以降はこれを解消したい。	B	・教科内で授業参観を行い、社会参画力と創造力の育成を含めた自らの授業改善に向けたヒントを得ることができた。 ・「分かった」等の肯定的回答が87%を超えることができた。	B	
理科		・玉野にはナイカイ塩業があり、塩づくりに適していた。直島には三菱マテリアルがあり金属の精錬が行われている。科学と身近な産業が結びついていることへの関心が乏しい。	・イオン結晶や金属について協力して実験を行い、どんなことが分かったのか話し合いの中から一定の方向性を見出せる力を養う。	・実験プリントに考察・設問欄など個人の考えを記述するものだけでなく、まとめとしてグループの意見が反映する形式も取り入れる。	実験を3回・実習を1回行ったが、思っていた以上に安全に気を付けながら協力的に実施できた。1つ1つの項目に評価を加えることでさらに意欲的に取り組ませていきたい。	B	・教科書に記載されている地震や気象の内容を、能登半島地震および豪雨を題材に学習した。特に、ク롬ブックを用いて資料を集めるなど協働的な作業を取り入れ深い学びになったと思う。今後もタイムリーな内容を取り上げて、興味関心を高めていきたい。	B	
体育科		・指示を待つことが多い。・種目を楽しむことができるがルール等に乏しい。・地域と関連がない。	・自ら動く、活動できるようになる。 ・ルールの中で生徒同士工夫でき、授業を楽しむことができる。・体育祭で発表する。	・グループ活動の活性化・種目の特性を学び動きに活かす・体育祭で地域との関連事業を行う。	・体育祭において地域との連携を図り、「かっからか」に取り組む。 ・ルールの確認、個々に合わせたルール改正等取り組む。	B	体育祭での地域交流はできなかった。生徒減等に対して、生徒会との連携をもち、生徒自身で内容等しっかり考え取り組めた。	B	

学校経営目標等 重点目標	関係分掌	現状分析	今年度の達成基準	具体的計画	自己評価（中間）	評価	自己評価（最終）	評価	総合評価
個別最適な学びと協働的な学びを取り入れた、学びを深める授業づくり	英語科	・中学校で習得すべき学習内容の理解度は十分とは言えないが、ペアワークやグループ活動に対する取り組みにおいて、前向きな姿が見られる。	・自らの考えなどを、自分なりの英語の知識を用いて他者と伝え合うことができる。	・教科の特性としてパフォーマンス活動が中心となるため、生徒の特質に応じた活動を取り入れる。	Team Teaching を中心にしたグループ活動において、積極的に発言する様子が見られた。個別の活動においても、Chromebookなどを用いて、自己PR作成などの課題に取り組んだ。	B	個の資質・能力に応じたパフォーマンス活動に取り組むことができた。必要に応じてChromebookなどのICTを活用することもできている。	B	B
	家庭科	・岡山市内から通学している生徒が多く、玉野市の特産品などについてあまり知らない。	・玉野市の特産品について興味関心を持ち、自分で調べて調理実習で作ってみたいという意識が高まっている。	・玉野市のグルメの温玉めしや野菜具たくさんスープや紫芋を使ったお菓子など、調理実習に取り入れて玉野市の地域の特産物を理解する。	6月に温玉飯を実施した。11月に紫芋を使用したカップケーキをつくる。二人一組で調子実習ができているので、お互いに協力しながら実習をすすめることができている。	B	温玉飯や紫芋などの玉野の特産品を知らない、一度も食べたことがない生徒も多く、今回の実習で体験できて良かったという生徒の意見が多かった。事前に調べてレポートにまとめることにより理解を深めることができた。	B	
	工業科	・授業実習において、4班編成で各ショップに分かれての実施をする中で協働的な学びを取り入れた中で個々における知識技術の獲得に務めている。	・授業実習において個々での作業を通して知識技術の獲得向上を目指し、創造力のレベル3以上を目指す。	・安全を第一に、連携企業の社員の方や講師の方と協力しながらできるだけ多くの大人が関わり生徒を指導する環境を整える。	ケガ・事故等が1件もなく、安全に実習等を実施することができた。	B	ケガ・事故等が1件もなく、安全に実習等を実施することができた。	B	
	商業科	・昨年度も授業や課題、検定への取り組みなどで、お互いに教え合うなど、協働的な学びは多くの場面でできていた。個別最適な学びについてより深める余地がある。	・学校自己評価アンケート「(T-15) 個別最適な学びと協働的な学びを取り入れた授業を行っている」の肯定的回答が95%を超える。	・教科書付属のアプリやデジタル教材を活用する。 ・スライド配信や課題・宿題など教材を工夫し、個別最適な学びについて取り組む。	各科目において、デジタル教材の活用や、適切な課題や教材の実施について、取り組みをさせていただいている。検定試験についてなど、個々の進度で取り組みながら教え合うなどの活動ができている。	B	学校自己評価アンケート「(T-9) 個別最適な学びと協働的な学びを取り入れた授業を行っている」の肯定的回答が94%であった。各科目において、個別の取り組み、グループ学習や班学習を、必要に応じて取り組んだ。	B	
広報活動のさらなる充実へ向けた体制整備と、小中学校への魅力発信	総務課	・本校を知ってもらうためのより効果的な広報活動を行う必要がある。	・最終的な募集倍率1.0を機械科またはビジネス情報科で達成させる。	・中学校訪問、出前授業などの中学校向け広報活動の推進と、より効果の高い手法を実践していく。	・積極的な中学校訪問、HPの内容見直し変更、SNSの積極的な更新、メルカ内での広報、地元企業への協力依頼等を行った。その結果、オープンスクール参加申し込み数147名（1.23倍）、保護者説明会50名参加の成果とつながった。岡山市倉敷市へのアプローチが不十分であるため今後はその方面への手立てを講じていきたい。	A	中間評価で記載したことに加え、新しい取り組みである専門家の出前授業を中学校3校、小学校2校で実施することができた。次年度を見据えて中学2年生対象に学校説明会、進路講演会を実施することができた。しかしながら1月現在での募集倍率は1.0を上回ることはできていない。	A	A
	機械科	・玉野市内の小中学校、保護者も含めてまだまだ本校機械科のこと、取り組んでいることを知られていない部分がある。	・小中学校へ出前授業を3校以上実施する。 ・校外に向けたイベントを1つ以上実施する。	・8月から計画立案を行い、9月から実施の案内を出し、11月頃から実施を行う。	図書館との連携により親子ものづくり教室を開催した。また、年度末までに実施する出前授業の計画を立てた。これから中身の検討に入る。	B	・玉・荘内・日比中学校において出前授業を実施した。 ・三井オータムフェスティバル、玉の輪祭りに対してミニ四駆製作教室を実施した。	B	
	ビジネス情報科	・課題研究の商品開発や販売、玉の輪祭りなどで地域の企業や住民の方々からの認知度は広がるが、小中学校へ直接的な魅力発信は教科としてできていない。	・小中学校へ出前授業を実施する。 ・ビジネス実習での取り組みと、販売やイベント活動をSNSや配布物などで積極的に発信する。	・2年ビジネス実習、3年プログラミング、観光ビジネスを中心に、2学期または3学期を目標に、小中学校へ出前授業を実施する。	1学期は基礎知識の学習と出前授業へ向けての準備をしてきた。2学期には小学校に出前授業に行くための、具体的な内容について生徒と共に話し合い、準備に取り組んでいく。	B	3年プログラミングでは、山田地区・玉原小へ、観光ビジネスでは、玉・荘内・日比中へ出前授業を実施し、好評を得た。また、2年ビジネス実習では「THE MARKET」「オータムフェスティバル」での販売や岡山たまのまなびやでの活動を通じて、情報発信を行った。	A	
企業訪問や大学訪問を通じたキャリアデザインの構築	指導課	・1年生からの進路学習の充実が求められる。 ・活動報告書提出率が低水準である。 ・生徒の学校生活における目的意識と学校活動への参加状況の改善が求められる。 ・生徒の気持ちに影響を与える進路学習や進路指導の工夫が必要である。	・全校の生徒が活動報告書を提出する割合が50%を超えること。	・年間進路指導計画に沿って生徒の活動報告書を着実に回収し、進路行事を実施する。 ●1年生：4月進路座談会 7月職業体験 10月校内進路ガイダンス 12月生徒希望別企業・大学訪問 3月企業学習会 ●2年生：4月校内進路ガイダンス 7月進路講演会 10月校内進路ガイダンス 12月生徒希望別企業・大学訪問 3月企業訪問 ●3年生：4月校内進路ガイダンス 7月進路別ガイダンス	・活動報告書の生徒提出状況は、5月⇒65.4%、6月⇒79.6%、7月⇒61.1%、8月⇒54.3%であった。担任の先生方の呼びかけが大きな要因であったと考えられる。全校生徒の過半数を超える提出状況を今後も継続し、生徒の活動実績の積み重ねにつながり、3年時において進路指導に有意義なものとしたい。 ・進路ガイダンスについては、主に4月、7月に各学年において実施した。特に3年生では、直接進路希望先の決定に関わる内容を実施でき、具体的に比較検討できる具体的な情報を得る機会を提供することができた。	B	・1年間の活動期間を12期間に分けた提出スケジュールに従い運用した結果、活動報告書の利用率は、平均して50%を超える継続的な活用ができた。 ・1年及び2年生 :玉野で活躍する職業人との座談会（4月） 玉野で働くベトナム人との座談会（7月）校内進路ガイダンス（4月及び10月）3年生が進路経験を語る会（12月）若手社員との座談会・ベテラン社員との座談会（12月）2年対象進路ガイダンス（職業体験：7月）企業訪問（3月） ・3年:進路別ガイダンス（7月）	B	B
	機械科	・1、2年生それぞれに実習の時間を利用して工場見学や専門学校見学を実施している。	・1、2年生それぞれにおいて2社以上企業見学を実施する。 ・2年生は2024国際ウェルディングショー、ポリテクカレッジへの見学を実施する。	・各学年実習予定表をもとに、見学日時を予定、計画を立てていく。	4月にウェルディングショーへ行き、先進の溶接技術を学ぶことができた。1、2年生の企業見学等の中身をこれからつめていく。	B	計画通り企業・工場見学等を実施した。 ・1年…三井、宮原 ・2年…ウェルディングショー(大阪)、OTEX、ナイカイ、日比製煉、ポリテク、トヨタ(出前授業)	B	
生徒を主体とした安全かつ快適な学校生活づくり	指導課	・生徒数減少やクラス数減少などにより、例年通りの雄心祭の実施が難しくなっており、内容の刷新を検討中である。	・雄心祭後のアンケートで、満足度に関する項目についての肯定的意見が85%以上になる。	・生徒会が中心となり企画・運営を行う。	雄心祭に向けて生徒会を中心として内容の刷新を図っている。	B	文化の部では模擬店の部を復活させ、展示・ステージ・模擬店からクラスごとでの選択制とし例年とは違った取り組みを行った。肯定的意見は94.7%になり、生徒にとって思い出に残る学校行事となった。	A	A
	厚生課	・学校安全に関する教職員や生徒に対しての研修が計画的に行われていない。	・教職員に対しては不審者対応訓練を実施する。 ・生徒に対しては薬物防止研修を実施する。	・不審者対応訓練は夏季休業中に予告なしで実施、薬物防止研修は長期休業前に実施する。	・7月10日（火）に就実大学准教授 加地弘明先生による「知ってほしい 薬物乱用のこわさ」についてという演題で生徒教職員を対象に講演をおこなうことができた。 ・8月21日（水）に玉野警察署による不審者が校内へ入ってきた時の対応などを講義と実技を交えおこなうことができた。	A	年度当初に立てた計画通り実施することができた。来年度に向けて継続して実施していきたい。	A	